

令和元年度第1回評価問題検討会 科目「世界史探究」

次の文章を読んで、以下の問いに答えなさい。

19世紀後半以降の世界は、交通網や技術の発達によりさらにグローバルネットワークが緊密になっていった。西欧諸国の進出を受けて「西洋の衝撃」を受けたアジアでは、明治日本をはじめ、①中国の清王朝やチュラロンコン大王のタイなどが近代化政策を推進し、独自のアジア間貿易ネットワークも形成した。日本では、開国後の13年にも及ぶ動乱ののちに、1867年に江戸幕府が政権を明け渡し、明治維新がおこった。ここから日本は「西洋の衝撃」の影響を受けて、アジアで最も徹底した西洋化への改革を開始する。そのための情報収集と不平等条約改正の下準備のために、明治政府の主要メンバーが海を渡った。これが世に言う②岩倉遣欧使節団である。③この使節団は1870年代初頭のグローバルネットワークを多大に利用し、安全かつ高速に世界各国を歴訪できた。このころには【 A 】の発明した電信の技術も確立され、世界中に電信ケーブル網がはりめぐらされていた。使節団は、この電信網を利用して、不平等条約改正交渉の状況について電報を打った。

また、④イスラーム諸国もパン＝イスラーム主義の理念のもと国を越えたネットワークを形成して西欧の列強諸国に対抗していった。しかし、1870年代以降の世界的な不況を契機にヨーロッパ勢力も変化し、アジア・アフリカへの領域的支配を進めていくようになる。ネットワークを支配するだけでなく、植民地支配を広げる「帝国」へと変貌を遂げていくのである。

岩倉具視遣欧使節団



問1 下線部①に関連して、中国の清王朝やタイで実施された近代化政策について述べた次の文 a と b の正誤の組合せとして正しいものを、下の①～④のうちから一つ選びなさい。

a 清朝ではアヘン戦争に勝利後、戦争で活躍した李鴻章らが「中体西用」の立場で富国強兵を目指す洋務運動を展開した。

b タイでは外国への留学や外国人専門家をまねいて行政・司法組織などを改革して近代化に成功し、東南アジアで唯一独立を維持した。

① a－正 b－正

② a－正 b－誤

③ a－誤 b－正

④ a－誤 b－誤

問2 下線部②に関連して、以下の史料は岩倉遣欧使節団が欧米各国を訪れた際の記録である。使節団が日本の参考になると考えた国を一つ挙げ、その理由について簡潔に述べなさい。

アメリカ（ワシントン）

各州の権利が伸張り、大統領の権限が抑えられ、人々の間でも政治議論が年々盛んになっている。このような政治が100年も続いているので、子どもでさえも君主に従うことを恥ずかしがる。純粋な共和国の人々である。

フランス（パリ）

フランスでは、ここ80年間に国家体制が6度改まっている。いくつもの政党に分かれ、コムューンという過激な政党もある。指導者に能力があるときは繁栄するが、そうでないときは、たちまち激しい内乱状態となる。

イギリス（ロンドン）

イギリスが豊かであるのは、人々の力が優れているからである。…ロンドン市内は空中を走る列車があるかと思うと地下を走る列車もあるわけで、土木・建築技術の極致を感じた。…ヨーロッパが今日のように豊かなのは1800年以降のことで、著しくなったのはわずか40年にすぎない。

ドイツ（ベルリン）

ドイツの方針は日本に似ており、この国の政治や経済の事情を知るのは、イギリスやフランスの事情を知るよりも得るものが多いだろう。…国王は行政の全権をもち、首相や閣僚を任命して国務を行わせ、立法権の一部をもっている。政体は、立憲政治である。

問3 下線部②に関連して、この遣欧使節団に通訳として同行したのが中浜万次郎である。彼は漂流ののち 1843 年にアメリカに渡り、1852 年に帰国してその後江戸幕府に使えた。彼がアメリカ滞在中にアメリカ国内で起きた出来事を以下から選んで答えなさい。

- ① ゴールドラッシュ
- ② リンカンのゲティスバーグ演説
- ③ アメリカ＝イギリス戦争
- ④ ミズーリ協定の制定

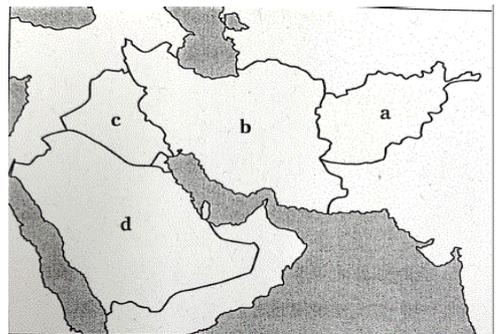
問4 下線部③に関連して、この使節団が通ったルートを以下から選んで答えなさい。

- ① 太平洋→パナマ運河→大西洋→スエズ運河→インド洋→帰港
- ② 太平洋→→パナマ運河→大西洋→スエズ運河→インド洋→帰港
- ③ 太平洋→大陸横断鉄道→大西洋→スエズ運河→インド洋→帰港
- ④ 太平洋→スエズ運河→大西洋→パナマ運河→インド洋→帰港

問5 文中の【 A 】に当てはまる人名を答えなさい。

問6 下線部④に関連して、次の文章中の空欄【 ア 】に当てはまる国名を答え、その位置を地図中の a～d から選んで答えなさい。

【 ア 】では、政府がイギリスの会社に与えたたばこの独占利権に反対するタバコ＝ボイコット運動が起きた。この運動で民族意識が高まり、のちの立憲革命へと繋がった。



問7 下線部②に関連して、使節団はドイツを訪問した際に宰相ビスマルクより晩餐会の招待を受けた。その晩餐会でビスマルクは使節団に対して以下のような演説を行った。この演説内容を踏まえて、あなたがビスマルクだったらドイツ帝国のどのような点をモデルにすべきと提案するか、具体的事例を挙げて簡潔に述べなさい。

諸君らは世界各国が礼儀を持って付き合っているのを見ただろうが、それは表面上のことで、現実には弱肉強食である。プロイセンは昔小国だったので、そのときの屈辱は大変忘れ難い。万国公法（国際法）は全ての国の権利を保障する法とされているが、実際に大国は有利とみれば万国公法を、不利とみれば武力に訴えて物事を行うだろう。…（中略）…そんな中、我々は志をもって数十年励み、ついに望みを達成した。日本は万国公法に則った国体を整備するよりもまず富国強兵に努め、独立を全うすることがもっとも大事なのである。日本が親交を深めている国は多いだろうが、国権自主を重んじるドイツこそふさわしい。

『米欧回覧実記』より抜粋

問題のねらい

世界市場の形成とアジア諸国の変容がもたらされた 19 世紀の世界を構造的に理解し、近代化を成し遂げた日本が列強の仲間入りを果たしていく国際的な立場の変容について考察する力を問う。

高等学校学習指導要領の内容	主に問いたい資質・能力		小問の概要
	知識・技能	思考・判断・表現	
D 諸地域の結合・変容 (2)世界市場の形成と諸地域の統合 【小項目(イ)】	19 世紀後半のナショナリズムの動きとアジア諸国の諸改革についての理解	資料（演説文章）から読み取った情報や習得した知識を活用して、複数の歴史的事象を比較して共通性や差異をとらえることができる。（諸事象の比較）	ドイツ帝国成立の過程とビスマルクの果たした役割についての理解 資料を読み取り目的に応じて活用する技能

解答例

問1 ③

問2 ドイツ 君主政を採用しており、政体の成立時期も明治維新期の日本と同時期
だったため

問3 ①

問4 ③

問5 モールス

問6 イラン b

問7 欧米諸国と肩を並べるくらいの軍事力を持ち、不平等条約の改正に力を注ぐべき
(不平等条約の撤廃、軍事力の強化などに触れる)